

第2学年2組 算数科学習指導案

1 題材名 6 この数字でひっさんをつくろう

2 題材について

- (1) 本題材では、2位数+2位数や2位数-2位数の計算の理解を深めることが主なねらいである。

児童はこれまでに、次のようなことを学習してきている。

- ・1位数+1位数で繰り上がる場合の計算について、具体物を用いて結果を求めること。
- ・1位数+1位数で答えが10よりも大きくなる場合について、おはじきやブロックの数など具体的な操作と対応させ、計算方法をまとめること。
- ・10いくつ-1位数で繰り下がる場合の計算について半具体物を用いて結果を求める活動を通して、原価法を使い計算すること。
- ・10いくつ-1位数で繰り下がる場合について、おはじきやブロックの数など具体的な操作と対応させ、計算の方法を説明すること。

そこで、本題材では、これらの学習を基に、2位数+2位数や2位数-2位数の計算の理解をふかめるために、いろいろな数を空欄に当てはめながら、児童が自ら加法や減法のきまりについて、気づくことが大切である。

- (2) 本時では、加法の筆算からはじめる。はじめに、(2位数)+(2位数)で一の位が繰り上がる筆算㊸で復習を行ったあと、㊸㊹の問題について、空欄に当てはまる数字を考えたり、ほかにどのような筆算ができるか考える。この場面では、被加数と加数の一の位(または十の位)を入れ替えても計算が成り立つ、加法の交換法則について気づかせたい。減法の筆算も同様に行っていく。(2位数)-(2位数)で繰り下がりのある筆算(㊺)で復習を行ったあと、教科書に載っている㊺㊻の問題について、空欄に当てはまる数字を考えたり、ほかにどのような筆算ができるかを考え

$$\begin{array}{r} \text{㊸ } 54 \\ + 27 \\ \hline 81 \end{array} \quad \begin{array}{r} \text{㊹ } \square 7 \\ + 1\square \\ \hline \square 5 \end{array} \quad \begin{array}{r} \text{㊸ } 1\square \\ + \square 4 \\ \hline 7\square \end{array}$$

□

えることで、(2位数)-(2位数)の計算が筆算で確実にできるよう図っていきたい。

$$\begin{array}{r} - 54 \\ 18 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} - 2\square \\ \square 8 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} - \square 7 \\ 5\square \\ \hline \end{array}$$

3 題材の目標

○減法の計算方法を、既習の数の原理や概念、加法の場合と関連させ、つくりだそうとする。
(算数への関心・意欲・態度)

計算の結果を、減法に成り立つ性質をもとに確かめようとする。

○計算の方法を、記数法のしくみと単位の大きさに着目して考え、図や式などを用いて表現することができる。

減法に成り立つ性質である、差に減数を足すと被減数に等しくなることを帰納的あるいは図を使って考え表現することができる。
(数学的な考え方)

○2位数までの繰り下がりのない減法、繰り下がりが1回ある減法の計算を筆算でできる。

減法に成り立つ性質である、差に減数を足すと被減数に等しくなることを使って、計算の確かめをすることができる。
(数量や図形に対する技能)

○2位数までの繰り下がりのない減法、繰り下がりが1回ある減法の計算原理、方法が分かり、筆算形式を理解する。

減法に成り立つ性質として、差に減数をたすと被減数に等しくなることを理解する。
(数量や図形に対する知識・理解)

4 題材の指導計画 (14時間)

- (1) 2けたのたし算・・・・・・・・・・ 6時間
- (2) ふくしゅう2・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 2けたのひき算・・・・・・・・・・ 6時間
- (4) 6 この数字でひっさんをつくろう・・・・・・・・ 1時間 (本時 1 / 1時間)

5 本時の学習指導

(1) 目標

○ルールを理解し、進んで筆算をつくろうとすることができる。

(算数への関心・意欲・態度)

度)

○2位数－2位数の計算が筆算で確実にできる。

(数量や図形に対する技能)

能)

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点、◆評価	時間
1 本時のめあてを知る。		5'
◎ ひっ算のルールをみつけよう		
2 ⑥を解きながら今回のルールを全員で確認する。 ⑥ $\begin{array}{r} 54 \\ +27 \\ \hline 81 \end{array}$	○6個の数字をすべて1回ずつ使いながら筆算をつくるということを全員が理解できるようにする。	
3 ④⑤について各自で行う。 ④ $\begin{array}{r} \square 7 \\ +1\square \\ \hline \square 5 \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{r} 1\square \\ +\square 4 \\ \hline 7\square \end{array}$		
4 ほかにどんな筆算ができるか、考える。 C1 $\begin{array}{r} 27 \\ +54 \\ \hline 81 \end{array}$ C2 $\begin{array}{r} 57 \\ +24 \\ \hline 81 \end{array}$ C3 $\begin{array}{r} 24 \\ +57 \\ \hline 81 \end{array}$ C4 $\begin{array}{r} 17 \\ +28 \\ \hline 45 \end{array}$ C5 $\begin{array}{r} 14 \\ +58 \\ \hline 72 \end{array}$	○いろいろな筆算を考えるように促す。 ○筆算の思いつかない児童にはあいふそれぞれの数字のうち何枚かを入れかえればできることを伝える。 ◆ ルールを理解し、進んで筆算をつくろうとすることができる。 (算数への関心・意欲・態度)	5'

5 出来た式を黒板の紙に書き、気づいたことを発表する。 C 1 上の数と下の数をいれかえても答えが一緒だね。 C 2 上と下の一の位（十の位）の数をいれかえても答えが一緒のものがある。 6 同様の流れでひき算の筆算を行う。 （㊦は全員で確認、㊧㊨は各自で行う。） 7 ほかにどんな筆算ができるか。考える。 C 1 7 2 C 2 7 2 $\begin{array}{r} 72 \\ -18 \\ \hline 54 \end{array}$ C 3 7 2 C 4 4 5 $\begin{array}{r} 72 \\ -54 \\ \hline 18 \end{array}$ C 5 8 1 $\begin{array}{r} 81 \\ -57 \\ \hline 24 \end{array}$ 8 できた式を黒板の紙に書き、気づいたことを全体で発表する。 C 1 ひく数と答えを入れ替えても式ができるね。 C 2 ひく数と答えの一の位を入れ替えても式ができるね。	○黒板の紙に計算式を書くとき、81・72・45の3種類の答えによって3つに分類して貼るようにする。それを見た児童に気付いたことを挙げてもらうことで以下のことに気付かせるようにしたい。 ・上の数と下の数を入れ替えても計算がなりたつこと。（加法の交換法則） ・被加数・加数の一の位・の位を入れ替えても計算がなりたつこと。 ○既習のくり下がりのあるひき算の筆算について定着が図れているか確認する。 ○いろいろな筆算を考えるように促す。 ○つまづいている児童には学習活動4と同様に、一部に当てはめさせたり、くり下がりがあることを伝えてから考えるようにする。 ◆ 2位数－2位数の計算が筆算で確実にできる。 （数量や図形に対する技能） ○減数と答えを入れ替える、減数と答えの一の位・十の位を入れ替えても計算がなりたつことを確認する。 ○黒板の紙に計算式を書くとき、最初に行った㊦㊧㊨の3種類の式を基本形として3つに分類して貼るようにする。それを見た児童に気付いたことを挙げてもらうことで以下のことに気付かせるようにしたい。 ・減数と答えを入れ替えても筆算がなりたつこと。	1 0 〳 5 〳 5 〳 5 〳 1 0 〳
--	---	--

	・減数と答えの一の位または十の位を 入れ替えても筆算がなりたつこと。	
--	---------------------------------------	--

6 備考 在籍児童数 35名

7 板書計画

--